

2009年5月25日

杉並区教育委員会
教育委員長 大蔵 雄之助様
教育長 井出 隆安様
教育委員長職務代理 宮坂 公夫様
教育委員 安本 ゆみ様
教育委員 大橋 辰雄様

杉並の教育を考えるみんなの会
連絡先

平成21年度中学校教科用図書採択に関する要請

要請趣旨

1. 教員の声、区民の声を生かした教科書採択を行ってください。
2. 透明で公正な審議を保障するため、教科書調査委員会の審議を公開してください。
3. 現場に混乱をもたらすような無責任な教科書を採択しないでください。
4. 特定の教科書の支持を表明している教育委員は採択審議から外してください。

要請理由

「杉並区教科用図書の採択に関する規則」第二条（基本方針）は、「（一）適正かつ公正な採択に努めること、（二）教科書に関する専門的な調査を行い、その成果を生かすこと」と定めています。しかし、貴教育委員会は、4年前の2005年、教科書調査委員会の報告、種目別調査部会の報告、各学校における調査報告など専門的な調査の結果が、いずれも扶桑社版「新しい歴史教科書」を評価していなかったにもかかわらず、これを中学校社会科歴史教科書として採択しました。このことは、当時のNHKの報道でも取り上げられ、他教科の教科書の採択との著しい差異に疑問を投げかけ、教育委員会が独断で恣意的に採択したと断言せざるを得ない結果であることを報じました（資料1）。また、区民アンケートの結果でも、明らかに扶桑社版教科書は評価されていませんでした（資料2）。以上の事実は、2005年の採択が「基本方針」(一)及び(二)に違反することを示しています。

今年の教科書採択ではこのようなことのないよう、教員の調査報告書、教科書調査委員会の報告、区民アンケートを尊重し、教科書採択を公正に行うよう要請します。

また、そのために、教科書調査委員会の公開など採択の経過を区民に公開することを要望します。

この4年間、扶桑社版教科書の使用により、教育現場では、教科書に対する信用が失墜しています。採択当初、扶桑社の社員が杉並の社会科教員を訪ね歩いて、教科書の内容について意見を求めた結果、教員の指摘した誤りの書き込みで教科書は真っ赤になっていたそうです。しかしその後、扶桑社は教科書の訂正申請を怠り、間違いだらけのまま4年間放置しています(パンフ参照)。数字や年号など初歩的な誤りも多く、教員や生徒に混乱をもたらしています。

保護者の間では扶桑社版教科書を「あんな教科書」と呼び、「塾に行かせるしかない」「先生を信用するしかない」などの声があちこちから聞こえてきます。歴史的な裏づけのない、独断と自己主張を押し付ける「教科書」の使用は、貴教育委員会の信用失墜にもつながります。

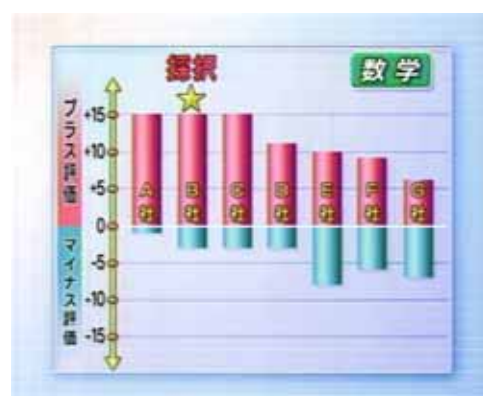
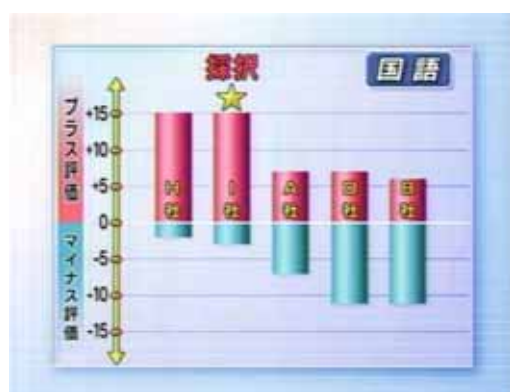
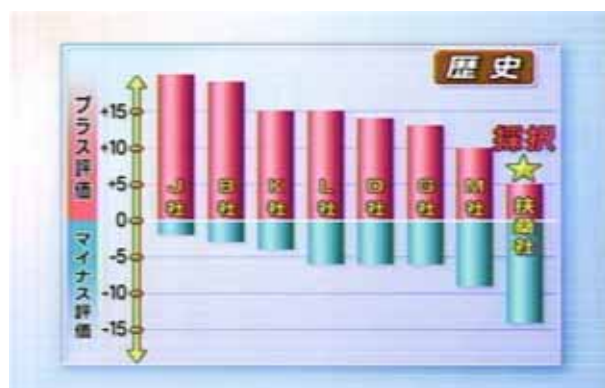
また、周知のとおり、扶桑社版教科書の母体となる「新しい歴史教科書をつくる会」(以下「つくる会」)は、「日本教育再生機構」(八木秀次理事長)を母体とする「教科書改善の会」と、「つくる会」(藤岡信勝会長)とに分裂しました。「教科書改善の会」は、今期の教科書作成は見送り2011年度に育鵬社(扶桑社の子会社)から新たに発行すること、それまでは扶桑社版の発行を継続することを表明しています。

一方「つくる会」の藤岡信勝氏は、別途、自由社から教科書を発行して、今期の検定合格にこぎつけました。結果として、藤岡信勝を代表執筆者とする歴史教科書が2社から発行されることとなりましたが、2つの教科書は80%~90%が同じ内容です。藤岡信勝氏は著作権をめぐる訴えを起こし、現在裁判が係争中です。扶桑社側が逆提訴する可能性も報道されました。このような、教育とは無縁の争いに杉並区の教育を巻き込むことは、教育委員会として絶対に容認すべきではありません。何卒、賢明なご判断をお願いいたします。

さらに、大蔵教育委員長は、上記の「つくる会」分裂騒動の中で、日本教育再生機構の側に「代表委員・設立発起人」として名を連ねています(パンフ参照)。区議会では「勝手に名前が使われた」という趣旨の答弁をしておられました。それならば速やかに「産経新聞社」および「日本教育再生機構」に抗議すべきですが、それもされていません。4年前に扶桑社版教科書を強く推した大蔵氏が、「扶桑社版教科書は欠陥が多いから別の教科書をつくる」と公言する日本教育再生機構に賛同するとは、大変無責任な話です。また、特定の教科書に関わる者が教科書採択に関与することは法規上も問題があります。大蔵氏は、教科書採択の審議メンバーからはずしてください。

以上

(資料1) 2005年NHKクローズアップ現代で紹介された教員の評価



これは、杉並区の先生方の教科書に対する評価のグラフです。

国語や数学などはプラス評価の多い出版社を採択していますが、社会科歴史だけは先生方が使うのにふさわしくないとマイナス評価している扶桑社（最下位）を採択しています。

調査委員会の歴史に関する総合所見も「物事に対して一面的な記述が多いので、多面的なものを見方を育てるのにつながらない。」となっています。

(資料2) 2005年教科書採択 教科書アンケートの結果

<資料> 情報開示で判明した「教科書展示会」での区民アンケートの評価

会場	扶桑社版反対(総数495)		扶桑社支持(総数218人)	
	歴史	公民	歴史	公民
済美教育センター	65人	76	114人	48人
図書館 (4ヶ所)	206人	148人	37人	19人
合計	271人	224人	151人	67人

・展示期間 済美教育センター 6月7日～6月30日。

図書館は、6月17日～30日の間、西荻・高井戸・中央・下井草の4箇所を巡回。

・済美教育センターでは、日付別で6月24日以降に扶桑社支持のアンケートが急増。(動員の動き)

【2005年 杉並区に寄せられた要請書等】 総数 6448 件

・8月12日までに届いたもの 4554 件

扶桑社反対 3297 件 : 扶桑社支持 1088 件

・8月13日～19日 1894 件

撤回 869 件 : 扶桑社支持 801 件